

高木仁三郎 反原発に生涯をかけ、カリスマとなった市民科学者。

たかぎじんざぶろう
健保+総動員 1938 =

群馬県前橋市で、開業医の子に生まれる。

日米開戦・・・1941 = 3歳 :

敗戦・・・・・・1945 = 7歳 :

新憲法施行・1947 = 9歳 :

国連加盟・・・1956 = 18歳 :

なべ底不況・1957 = 19歳 : 群馬県立前橋高等学校を卒業。_東京大学理科一類に入学し、

たいたい病始・1961 = 23歳 : 理学部化学科を卒業(核化学)。日本原子力事業(NAIG)に入社し、NAIG総合研究所核化学研究室に勤務。
全国総合計画1962 = 24歳 : 神田の古書店で、G. Seaborg "The Transuranium Elements"(1958)を購入。

大学紛争始・1965 = 27歳 : 東京大学原子核研究所助手となり、宇宙核化学を研究。朝日学術奨励金を得たプロジェクトでアルミニウム26の検出に従事。

全共闘・・・・・・1969 = 31歳 : 論文「宇宙線ミュー中間子と地球物質との反応生成物の研究」で理学博士。東京都立大学理学部助教授に就任。この頃、「同人誌{ぶるじえ}」に参加し、三里塚闘争にかかわり始める。

日中国交回復1972 = 34歳 : 渡独し、ハイデルベルクのマックス・プランク核物理研究所客員研究員、
石油ショック1973 = 35歳 : 帰国すると、東京都立大学を退職。主に翻訳で生計を立てつつ、雑誌原稿などを執筆し始め、
角栄金脈辞任1974 = 36歳 : *プルトニウム問題を考える自主グループ(プルトニウム研究会)を組織。
ケラブール事件1975 = 37歳 : {科学}に「プルトニウム毒性の考察」発表。京都で反原発全国集会。武谷三男を代表とする原子力資料情報室が設立され、専従世話人となる。

田中角栄逮捕1976 = 38歳 : 内部告発による美浜原発1号の燃料棒折損事故を追及。社会思想社教養文庫「ブルー-tonの火」。
成田衝突・・・・・・1978 = 40歳 : 反原発運動全国連絡会が{反原発新聞}創刊し、以後10年間、編集長を務める。
革新大敗北・1979 = 41歳 : この年、米スリーマイル島原発事故。東経選書「科学は変わる」。
貿易摩擦始・1980 = 42歳 : 社会思想社(編著)「スリーマイル島原発事故の衝撃」。
・・・・・・1981 = 43歳 : 岩波新書「プルトニウムの恐怖」、朝日選書「危機の科学」。
中曽根内閣・1982 = 44歳 : 岩波ジュニア新書「元素の小事典」、農山漁村文化協会「わが内なるエコロジー」。

ディズレーランド 1983 = 45歳 : 講談社現代新書「核時代を生きる」。
・・・・・・1984 = 46歳 : 径書房「(前田哲男との対談)核に滅ぶか?」。
ジャコフ機墜落1985 = 47歳 : 日比谷公会堂での(三里塚・東峰裁判完全勝利をめざす集会)実行委員長。岩波ジュニア新書「単位の小事典」、白水社「いま自然をどうみるか」。

バブル始・・・・・・1986 = 48歳 : チェルノブイリ原発事故が起きると、ヨーロッパを訪問。七つ森書館「チェルノブイリ 最後の警告」「(前田俊彦との対談)森と里の思想」、岩波ブックレット「原発事故 日本では?」。
竹下内閣・・・・・・1987 = 49歳 : 三一新書(共著)「われらチェルノブイリの虜囚」、平凡社「(関曠野との対談)科学の"世紀末"」、七つ森書館「(花崎皋平との対談)あきらめから希望へ」。「原子力問題の講師養成のため{反原発出前のお店}開講。原子力資料情報室の代表に就任。

リクルート事件・1988 = 50歳 : 4・24反原発運動全国集会(原発止めよう2万人行動・日比谷公園)事務局長。脱原発法制定運動を提起。
昭和天皇没・1989 = 51歳 : 弘文堂「巨大事故の時代」。
ドイツ統一・・・・・・1990 = 52歳 : 現代新書「(渡辺美紀子と共著)食卓にあがった死の灰」。
ソ連崩壊・・・・・・1991 = 53歳 : 原子力資料情報室とグリーンピース・インターナショナル共催(国際プルトニウム会議)。七つ森書館「下北半島六ヶ所村・核燃料サイクル施設批判」、農山漁村文化協会「核の世紀末 来るべき世界への想像力」。

バブル崩壊・1992 = 54歳 : 多田諤子反権力人権賞。岩波ジュニア新書「マリー・キュリーが考えたこと」で、
55年体制終・1993 = 55歳 : *サンケイ児童出版文化賞。「日本の脱プルトニウムへ向けた希求と、日本政府のプルトニウム政策転換を求める強い意志を表わすため、科学技術庁前でハンスト。原子力資料情報室が日本原子力産業会議と共催で、シンポジウム「今、なぜプルトニウムか」。七つ森書館「反原発、出前します! 高木仁三郎講義録」。

自社さ連立・1994 = 56歳 : 岩波新書「プルトニウムの未来 2041年からのメッセージ」。
オムカシ事件・1995 = 57歳 : 国際MOX燃料評価(IMA)プロジェクトを開始、研究代表を務める。社会思想社「宮澤賢治をめぐる冒険 水や光や風のエコロジー」。イーハトーブ賞。
・・・・・・1996 = 58歳 : 岩波ブックレット「もんじゅ事故の行きつく先は?」。
金融破綻・・・・・・1997 = 59歳 : IMA最終報告書「MOX燃料の軽水炉利用の社会的影響に関する包括的評価」を発表。「長崎被爆者手帳友の会平和賞。スウェーデンのライト・ライブリフッド賞」。

・・・・・・1998 = 60歳 : 高木学校から呼びかけ「オルタナティブな科学者を育てる」。カタログハウス「このままだと20年後のエネルギー"はこうなる"」。_大腸癌が発覚し、原子力資料情報室代表を退任。
石原都知事・1999 = 61歳 : 声明「成田空港の滑走路暫定案を白紙に戻すよう訴えます」。「NHK教育TV「未来潮流: 科学を人間の手に~高木仁三郎・闘病からのメッセージ」。東海村のJCO事業所で臨界事故が起き「恐怖の臨界事故」口述。朝日選書「市民の科学をめざして」、岩波新書「市民科学者として生きる」、岩波ブックレット「恐怖の臨界事故」。

・・・・・・2000 = 62歳 : *第9回田尻賞を受賞。青森地裁での核燃料サイクル施設許可取消訴訟で証言し、地層処分問題研究グループ報告書に論文「現在の計画では地層処分は成立しない」を執筆したが、聖路加国際病院で没した。
没後、J.Takagi and CNIC"The Criticality Accident at Tokai-mura"・光文社カッパブックス「原子力神話からの解放」・七つ森書館「証言 核燃料サイクル施設の未来は」・工作舎「鳥たちの舞うとき」・岩波新書「原発事故はなぜくりかえすのか」